

会議開催概要

会議名	第 17 回菊川市総合計画庁内策定委員会
日 時	平成 28 年 5 月 18 日（水） 11：00～
場 所	菊川市役所 2 階 201、202 会議室
出席者	委員長、他委員 10 名 事務局 4 名
議 事	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 （1）第 2 次菊川市総合計画基本構想（案）について （2）第 2 次菊川市総合計画実行計画（案）について 4 その他 5 閉会
議事要旨	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none">・開会宣言・互礼・出席者数確認・資料確認 <p>【資料 1】第 2 次菊川市総合計画基本構想（案） 【資料 2】第 2 次菊川市総合計画実行計画（案）</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>政策会議に引き続き、第 17 回の総合計画庁内策定委員会です。本日は基本構想（案）と実行計画の 2 つの議題についてとなります。</p> <p>基本構想は前回まででほぼ確定に近い状態になっていまして、市民アンケートの結果の報告と目標値の設定が議題です。それから実行計画の素案が 2 つ目の議案ですので、活発なご意見をお願いします。</p> <p>3 議 事</p> <p>（1）第 2 次菊川市総合計画基本構想（案）について</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局より資料説明 <p>委員長：今回は目標値の設定がメインとなりますので、事務局から提案があった数値の案ですが、50%以下は一律 60%、50%を超えるものはプラス 10%としていますが、今日この場で目標値を設定したいので、それぞれの部門での発言をお願いします。</p> <p>委 員：目標の設定ですが、端数を残すのか、まとめるのか、最初にそれを決めておいた方がいいと思います。</p>

委員長 : 目標値の小数点以下など端数をまとめるのかどうかということですが、どのような値がいいですか。今は、一律 10%を足しているだけです。

委員 : 50%未満は 50%と切りがいい数値。小数点以下はあまり意味がないと思います。

委員長 : 観光など 20.7%が 60%になっていますが、ここまで上げるのですか。他にも結構あります。50%以下を 60%にもっていくものは沢山あり、そこまでいきたい気持ちはありますが、それは無理だというものがあるかもしれないが、どうですか。

委員 : 各課長と目標値の案を出したと思いますが、それは出してもらえないのですか。

事務局 : 委員の部からは事前に案をいただいています。

委員 : 80%を 90%にするのは並大抵なことではありません。低い数値を一律に上げるのがそれぞれの計画にあっているか疑問です。目標は設定するプロセスが重要で、一律に事務局がやるのは疑問です。それぞれの担当課でどのくらいにするか考えてから上げた方がよいと思います。20%を 60%に上げるのは現実無理で、そのために観光の施設整備など出来ないのでは現状維持でもよいと思います。

委員 : うちの部でも分析しましたが、10%を上げるのは並大抵ではありません。過去の市民アンケートを平均すると上がってきてはいるが、防災など作ったものは上がるが、率が 79%を超えているものは、過去も 0.1 も上がっていません。それを 10%、一律に上げるのは難しく、単なる数値になってしまうので、各課で検討したものにして欲しいです。うちの部も検討したものを持ってきました。

事務局 : 事前提出があった部については、口頭でお知らせします。目標値ですが、17 番 80%、18 番 82.7%、19 番現状値以上、20 番、21 番、22 番も現状値以上、30 番、31 番、32 番も現状値以上との回答です。

委員長 : 現状値以上というのは数値にならないですか。

委員 : 前回の総合計画もその表現であったので、どうしても下げないことを目標にすることだと思います。

委員長 : 審議会委員からは何かありましたか。

事務局 : 第 1 次総合計画は上昇という目標値でした。審議会で会長と話し、上昇でいきたいとの案も出しました。審議会では数値は掲げるべきとの回答がありましたので、上昇では審議会の同意が得られません。一律上げるのは、意見は色々あると思いますが、審議員の方々には理由がないと目標は通らないとも言われていますので、一律でいくのか、ど

うするかは議論していただきたいと思います。基本的には数値で表して欲しいと思います。

委員：アウトカムを設けるのはいいと思いますが、アンケート項目の中で障がい者が暮らしやすいなどがあります。障がい者に直接聞いているのならいいですが、無作為に抽出したアンケートなので、数値で示すのは、目標としてはいいですが、実際は厳しいと思います。現状値以上がだめとなれば、その加減をどうするかは検討が必要です。

委員長：審議会で言うように、以上ではなく、数値を入れるということであれば、それを勘案して入れるしかないのでは。

委員：アンケートなので、市民の主観的な話。客観的な数値で表されるものではなく、そういう数値なので、事務局としては、少なくとも半数の市民にはそうしてもらいたい、そのようなまちにしたいと思ってもらいたいのです。各課の計画に沿った数値ということですが、主観的な数値にアプローチする計画があるのかということ難しいと思います。コンサルに聞くと、こういうアンケートの場合、3%程度は誤差の範囲になるので、現状値以上は誤差の範囲内になってしまいます。各課の計画に沿って数値を出していただいても、それが妥当な数値かということ疑問です。市民アンケートについては、一律の数値は議論してもらいたいですが、一定の上げ幅をもった目標にしないとだめであると思うのですが。

委員：誤差は確かにありますが、過去4年間の数値を見るとある程度安定しています。今までのアンケートは「普通」がありましたが、満足をとるのか、不満の解消をとるのかで精度は変わるので、誤差があるから少ない上げ幅はだめだというのは違和感があります。また、気持ちの問題で指標を定めるのがはたしていいのかどうか。10年後に見直す時に、この指標は気持ちで決めたという説明では難しいと思います。

委員：道路について言わせていただくと、向こう10年でどういう道路の計画があるのか、どれくらい上げられるかイメージはあります。公園も同じで、実際に作る計画はありませんが、事業が全くない中で、10%上げるというのは難しい。一律で上げるのは問題があると思います。その時の課長が10%を上げるために何をやるべきかを考え、数字を決めるので、そのプロセスが大事なので、審議会で言われたからどうするというのは疑問です。また、数値目標も直前で示されて決めてくれというのも無謀です。一律上げるのは納得できません。

事務局：スケジュールについては、アンケートの現状値をとるために、4月いっぱいにとって、連休明けにまとめてお願いしました。そのため5月にタイトなスケジュールになってしまいました。6月にパブリックコメントを考えると5月の審議会でOKを貰う必要があります。

委員：今回のアンケートで「普通」を削ったのはなぜですか。

事務局：「普通」をどちらでとるかの考え方があり、第2次は中途半端な聞き方はやめようということで4項目にしました。

委員：「普通」がどちらに傾いたのかを見たら、悪い方にいったものもあります。アンケートで「普通」とか「わからない」も回答だと思います。今回「普通」をとったことによって影響が出た分析も必要ですが、「普通」を残して、過去の積み上げの中で分析した方が良かったかなと思います。

事務局：今回のアンケートは39項目あり、第1次から15項目が継続です。人としてアンケートは迷ったら「普通」にしてしまうので、そこを明確にたく、第2次では「普通」をなくしました。継続したものを分析しましたが、満足度は右肩上がりではありませんが、上がったり下がったりしているというのが現状です。

委員：最初の事務局案は、根拠としてどのような説明をする予定であったのですか。主観的な意見で、毎年人が変わる中、結果はすごく浮動すると思うのですが。その中で、一律に10%を上乗せする時に、どのように委員に説明する予定だったのですか。現実に合わせて目標にするのですか。委員が納得してくれればいいが、根拠は感覚でしかないと言われてしまうと何も決められないと思いました。

事務局：根拠は正直言いまして、感覚でしかありません。各課もこの事業で何%上げるのかということは難しいです。事務局としては、10年間で年1%、トータルで10%上げたい。低いものは最低でも6割の方々に満足してもらいたいということが事務局の考えです。観光・交流についても、交流はオドラザ菊川などイベントのイメージがありますが、観光が入るとまた回答が変わってきますので、この項目を上げるためにはお金を投資すべきなのか、事業を整備するのかどうかといったものもあります。

委員：目標を上げるために何かしなければいけないが、それを市民に期待させる中で、市は何をするのか。また、取組みも上げるための取組みと現状を維持するための取組みがあると思います。交通の数値も、現状維持が精一杯だと思います。総合計画で現状維持では切ないので、難しいところではあります。

事務局：審議会には何度も上昇と言ってきましたが、平行線です。最終的には諮問に対する答申を行います。そこをクリアしないと前へ進めません。行政のやっているものは目に見える数値を持つべきとの意見なので、これからは、上昇とか現状維持は審議会の同意は得られないと思います。一律か、現課の考えかという論点については、現課の考えをすべて説明することは事務局側としては難しいので、各課にお願いするかもしれません。22番も45%が消費者被害に遭わないと思っていないことも60%でいいのかという意見もあります。それらを踏まえて意見をお願いします。

委員長 : 細かく決めていった時に、なぜこの施策をするのかを問われると、目標を決めておかないと、行き当たりばったりになってしまいます。一方、このくらいまでは満足してもらわないと、というのがあります。

委員 : 経緯は聞きましたが、やはり、内容として目標をどう扱うかにある程度は近くないと、なぜ達成出来なかったかは、現課が考えないといけないので、目標を設定した根拠を示して、がんばる数値なのかどうかを示しておいてもらいたい。一律の幅もある程度の選択させるようにして、現課に決めさせるようにして、現状値を確認して、現状をみて記載をしてもらう。それが折衷案かなと思います。これだけ見ると現課は企画が考えた数値となってしまいます。上昇ではだめなら、5%、10%、15%など選択肢を与えて、それを選んでもらうというのではどうでしょうか。

委員長 : 今の話で、5%、10%、15%、それ以上でどうですか。その中で、目標の値を選択してはどうですか。

委員 : ハードかソフトかもアンケートによって違います。ハードは低めに設定しています。教育環境については 3%くらいしか上げていません。出来ればハードの視点も入れて検討して欲しいです。

委員長 : 目に見えるものと見えないものとは市民は敏感なので、物が出来れば見えるのでよくわかります。

委員 : 防災は10%以上、この10年で上がっています。

委員 : こちらからの案は、これがすんなり通るとは思っていませんでしたが、最低60%に、というのはこちら側の思いです。高いのを10%上げるのは確かに無理だと思いますが、その意味では、一定の幅というのがやり方としてはいいかと思います。ただ、担当課によっては、積極的な人、慎重な人いろいろな方がいらっしゃるの、ある程度基準を決めた中でお願いしたい。

委員長 : 11番も、43.5%が46%にすると、これでいいのかという議論になると思います。交通はこれ以上、上げるのは難しいし、情報発信も31.1%でいいとは思わないです。それについてはなんとしても上げるという意識を持って設定してもらわないといけないと思います。

委員 : 一般市民が見た時に、9年後のことをどこまで思いを込めるのか、前向きな数値にしないと理解は得られないと思います。

事務局 : 選択肢で決めるという方法もありますが、部長が持ってきた数値を見るか、明日の部会で決めるのか、それまでにこの表を部会で決めてもらうか、時間的にはもうありません。理由も書いていただかないと説明出来ません。

委員 : 段階をこちらで作って、それに一つ一つ当てはめていって、上げ幅で理由を作ってもらう。

委員 : 担当課に戻して考えるのは時間がないので難しいです。次の審議会に間に合わせるなら、区切る方法と、50%以下は10%を上げる、50%から70%のものは5%、70%以上のものは3%とかにして、がんばる目標として書いてしまう。事務局としてがんばる目標を出してもらえれば、市民は努力目標として書いたと理解してもらえるのでは。低い数値のものは、半分くらいはいいねと言ってくれないと困るというのはわかりますが、質問の仕方や時期も関係するので、財政的に派手にやれば出来るかもしれませんが、届かない目標を掲げるのもどうかと思います。時間をかけるなら担当課に戻す方法もありますが。

委員 : がんばる目標としてならば、現課に対して説明できます。そのようなやり方がありがたいです。

事務局 : これだけの施策で3%上がると言えればいいが、わかりませんではだめだと思います。

委員 : 「がんばる目標で設定しました」で委員が納得してもらえるといいのですが。

事務局 : ある程度の幅を決めておいて、その中でも特例はあるので、どうしても出来ないものもどうするか。

委員 : 担当課も茶畑は、利用条件悪いものは手を引こうとなっているのに、10%上げようというは無理です。

委員長 : 明日までに決める必要があるならば、幅をもって努力目標を持つ、という形で決めてもらう。

事務局 : 事務局としては、努力目標で設定したという理由では、委員が納得できないかと考えます。

委員 : それだと、もうすでに出来ているという提案になってしまうのでは。

事務局 : 審議会向けの説明として期待値を込めて。

委員 : 気になるのが、一律すべて上げることについて、審議会が納得するのか。重点をつけたものに重みを置いてはどうかという意見もあるのでは。

事務局 : 審議委員によって違うので、聞かないとわからないです。

委員 : これは、目標管理として適正なのかどうか。一律で上げることが適正であるのかどうか。手法としてやり方が適切なのかどうか。課と相談した中では、数値を検討したので、その方が課としてはがんばれます。誰かに決められたのではなく自分で決めた方ががんばれます。

事務局 : 個別で検討ということですか。

委員 : 事務局で設定した数値と現課の数値との調整も必要になってきます。

委員長 : 個別に見るのは合理的なようですが、10年間の計画であるので、課の考え方で2%しか上がらないからそれでいいかは疑問です。

委員 : 総合計画が努力目標でいいのですか。いろんな選択肢を作って、それを当てはめていった方が説明出来ると思います。

委員 : 昔の総合計画は数値目標がなかったが、今の総合計画は、これからのまちはこのくらいにしたい、というのを組み立てが大事になってきます。

委員長 : アンケートにばらつきがあるからといっても、統計でアンケートを用いる方法があると思います。

委員 : 数値も「普通」がなくなったので低くなったものもあります。

委員長 : 「普通」がなくなって、はっきり出るのですが。

委員 : 一つの案として、80%以上は5%のプラス目標を持っています。他は10%以上の目標にしています。ただ、50%以下も含めても10%です。ただしハード的なものは、5%にしてもらえればいかなと思います。この数値であれば、うちの部はなんとかなります。

委員 : どれがハードですか。

委員 : 3番はハード整備のイメージです。16番はスポーツ施設と理解しています。

委員長 : 14、15番が低いとなると、文化度が低いまちと思われれます。

委員：普通をいれると高くなりますが、そういう意味では上げる余地があるかしれません。第一次の後期の原案を作る時に、重要度も上げるとありましたが、市民にアンケートで子育てと芸術・歴史・文化とどちらが重要かと問うと子育てなので、低くても仕方がないかと思います。

委員：50%以下は60%にするなどと決めた内容について、このような決め方をしたと書くことは出来ますか。

事務局：政策一覧表を123ページに掲載しており、ここに記載する予定です。

委員：そこに一律という表現は出てくるのですか。根拠を書くことはできるのですか。一覧の最後に、アンケートは、こういう決め方で出しましたというのは書けるのですか。

事務局：プラスがんばる目標とは書けるかどうかはわかりません。

委員：区分によって一律の目標としたというのは書けるのですか。現課があとで目標をもつてきてもらってもつらいと思います。そのためには、それを表記するしかないと思う。事務局で一律で設定したとしないと収まらないと思います。それで委員会も説明するわけですよね。この目標の設定根拠は何かをそこで説明する必要があると思います。

委員：今度の審議会は、アンケート報告だけで、延ばしたらどうですか。

事務局：6月にパブリックコメントするためには、次回にやる必要があります。

委員：重要な内容を1週間では無理だと思います。

事務局：それは承知していますが。

委員：スケジュールが決まっているなら、折衷案で審議会を説得できるかどうかではないでしょうか。現課に戻したら、1、2日では戻ってきません。

事務局：当課で今日中に、案を作って、出して、それで返事を明日の午前中に出してもらえればいいのでは。

委員：時間がないなら、午後作って、夕方見てもいいです。

委員長：午後事務局で案を作って、流せばいいのでは。明日の午前中に部長と打合せしてもいいです。

事務局 : 大至急、案を作って流します。明日の午後は部会を開催するので出席をお願いします。

委員長 : 基本構想については、会長の了解を得たということで、そのまま審議会に出していくしかないと思います。

事務局 : 審議会会長にお願いして、諮ったものを出して了解をもらっています。次の審議会では文章に対する意見は無いと思います。スケジュールとして、5月の全員協議会にパブリックコメント前に出したいと思います。パブリックコメントをして7月に修正して、会議を開催して、審議会を経て、議会に出すというスケジュールです。

(2) 第2次菊川市総合計画実行計画(案)について

事務局 : 議事2の説明だけさせていただいてよろしいでしょうか。

事務局 : 資料説明。

5 閉 会

以上